



2008/12/01

鳥との出会い／ヒヨドリ

ヒヨドリは身近にいる鳥だが、大接近したことが今までに2度ある。

今から30年ほど前、家のバラの木に鳥が巣を掛けた。雛が巣から落っこちて、ピーピー鳴いていたので気が付いたのだ。拾って巣に戻してやったが、残念なことに、それがどんな様子だったか、その後どんなふうになっていったかなど、あまり覚えていない。その頃は鳥に興味なかったのだ。当時バラの枝に、カエルが突き刺さって干からびているようなことが時折あったので、巣を掛けたのもモズという鳥だと、ズツと思っていた。あの時の鳥はヒヨドリだったのだと分かったのは、鳥を見るようになった最近のことである。

2度目は、今年の春のこと。家の前を歩いていると、目の前に何かがバサッと落ちてきた。何だろうと思い見てみると、ヒヨドリだった。体にナイロンのネットが絡み付いている。バサバサ羽を動かしているが、羽は自由を奪われ、ネットは簡単にははずれそうもない。「これははずしてやらなくっちゃ。」と、家に軍手とハサミを取りに戻ってみると、ヒヨドリの姿がない。「なんだ、ちゃんと飛べたのか！」と思ったのも束の間、カサカサカサという音が聞こえてくる。あたりを見回すと、家の前の生垣にいる。しかもネットが枝に絡んで、逆さまに宙吊りになっているのだ。さあ、ヒヨドリ救出大作戦。ぶら下がっているヒヨドリをネットごと枝からはずし、まず絡んでいない部分のネットをハサミで切り取った。あとは脚の爪や羽からネットをはずすのだが、これがなかなか難しい。力任せに押さえつけるわけにもいかず、力加減をしながら片手で押さえての作業だから、思うようにはずれない。ヒヨドリの方にはこちらの思いが伝わるわけもなく、身を委ねてくれたりはしない。羽をばたつかせて、懸命に逃げようとする。やっとはずれたネットがまた、爪に羽に絡む。早くはずしてやらなければと、気があせってくる。5、6分の苦闘の末(ちと大袈裟?)、あと少しでネットが取れると思った瞬間、力が少し緩んだのだろうか、するりと逃げられてしまった。あと一步だったのに……。しかし、今度はしっかり飛んでいるように見える。少し追いかけてみたが、もう届かない所まで行ってしまった。あれぐらい飛べるなら大丈夫かな?あとはもうネットが自然にはずれて、無事に生きていってくれることを祈るだけだった。今にして思うと、とてもスペシャルな数分だった。

野鳥の会に入れていただいて、まだわずかしかたっていないが、鳥はほんとうにいろんな姿を見せてくれる。「懸命に生きているなあ。」と、心打たれることも多い。見れば見るほど、知りたいことがどんどん増えてくる。これからもずっと見続けていきたいと思っている。

鳥と出会った人：平野 智子